

池田小学校
「学力向上実行プラン」

〇めあてをもち、振り返ることにより、主体的に考える力を育成する授業の実践
〇認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上推進員 大住 尚弘	委員 校長・総括 山下史記 教頭・総括補佐 山田知弘 研修主任 石丸美穂 教務主任 藤川慎也 生徒指導主任 近藤堪太 人権教育主事 仁尾有輝子 体育主任 中谷啓人 特別支援コーディネーター 濱田秀佳
------------------	---

校長
山下 史記

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇めあてをもち、振り返りを書くことを通して、主体的に考えることができる児童が増えている。 ●学力の定着や主体的に考える力に個人差がある。	・学習の過程を通して習得した知識や技能を用い、主体的に考えることができる。 ・学習を振り返り、自分の思いや考えを深め、確かな学力を身につけることができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、アンダーラインや囲みなどを用い、内容を正確に読み取らせる工夫をする。 ・振り返り際には、学年に応じて文型の指導や学年に応じた接続詞の提示をする。また、視点を明らかにさせる。 ・ドリルやプリント学習での反復学習を行う。	・教員自身が、指導要領をもとに、児童に身につけさせたい力を把握しながら教材研究に努める。	・各個人の学びや学び方を重視した授業づくりを行うことができた。 ・意欲的に反復学習を行う児童が見られた。	・学力を定着させるために個々だけではなく、学級全体の力を高める取組を考えていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇ペアやグループ学習、学級全体と様々な発表の場で友達に分かりやすく伝えようと考える児童が多い。 ●自分の考えをまとめたり、理由を付けて発表したりする度合いに個人差がある。	・自分の思いや考えを場面や目的に応じて、的確な言葉を選んで話したり書いたりできる。 ・自分の考えについて根拠を明らかにして、相手に伝えることができる。	・ホワイトボードやタブレットなどの様々な学習用具を活用し、考えを表現できる場を設定する。 ・思考ツールハンドブックを活用し、考えを整理しやすくする。 ・ペアやグループ学習を通して、自分の思いや考えを深められる活動を行う。	・スプレッドシート等の活用により、自ら考え、それを言語化する機会を設ける。	・3年生以上では、様々な教科でタブレット端末等、ICT 機器を活用した学習に取り組めた。 ・ホワイトボードやタブレットを活用することで、児童が自分の考えを表現しやすくなっていた。	・ホワイトボードやタブレット等のツールを活用しながら、様々な発表形態を検証していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇各授業に対して一生懸命に取り組むことができる児童が多い。 ●学習課題を主体的に捉える力に個人差がある。 ●家庭学習の取り組みに個人差がある。	・各授業や家庭学習の中で、学習課題をもち、その解決に向けて見通しや計画を立て、学習に取り組むことができる。	・めあてと振り返りを意識した授業を心がけ、児童が見通しをもち、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・各学期の始めに家庭学習の手順や視点について指導し、家庭学習への意欲を高める。	・年度初めに作成した「家庭学習のしおり」をもとに、再度、家庭での学習の仕方を各学級で確認する。	・児童一人一人がめあてを意識して学習に臨んでいた。 ・指示されたことには一生懸命取り組むが、自分で課題を考えて取り組むことが難しい。	・めあてや振り返りを意識した指導を継続していく。 ・児童によって学習の習熟度が異なるため、家庭学習は自分で考えて学習できる方法を模索していく。

